

協定校留学【終了】報告書

※現地の様子や大学の風景、ご友人との写真を添付して頂けると大変参考になります。ご協力ください。
 ※帰国後1カ月以内に提出(送信)してください。
 ※津田塾大学海外留学(派遣・受入)奨学金受給者はこの報告書をもって奨学金受給者報告書とします。

留学先大学	アベリストウィス大学	氏名	
国名	英国	学籍番号	
留学期間	2019年 8月 ~ 2020年 5月	記入年月日	2020年 6月 15日

1 履修したすべての科目についてお書きください			
主な専攻分野: Education (Childhood Studies)			
科目名	Literacy In Young Children	科目名	Psychology Of Learning And Thinking
授業内容	様々な文化のなかでリテラシーが持つ役割を探るとともに、子どもたちが言語を習得しリテラシーを発達させるうえで必要な条件やスキルについて考察する。	授業内容	思考と学びのプロセスに関する理論(ピアジェやヴィゴツキーなど)を学ぶ。その際、自分自身の学びのスタイルに思いを巡らせ、それらを理論と照らし合わせながら理解を深める。
授業形式	Lecture and Seminar	授業形式	Lecture and Seminar
単位数	20	単位数	20
サイズ	1クラス20~30人	サイズ	1クラス40人程度
難易度 Course No.	CQFW Level 5	難易度 Course No.	CQFW Level 5
宿題の量	ふつう	宿題の量	ふつう
コメント	子どもたちが、学校で読み書きを教わる前から、絵本の読み聞かせをしてもらうことや、日常生活でのあらゆる経験を通して読むこと、書くことを学び始めていることを再認識し、子どもたちの環境がリテラシーに与える影響力の大きさを知った。日本の状況についても改めて考えさせられる機会となり、このテーマは特に印象に残っている。	コメント	子どもたちが、学ぶうえで欠かせない情報処理能力や認知的思考力を、自らの発達に応じて発展させていくことを学び、その過程の大切さを知った。特に、幼児によく見られる自己中心的な発話も、子どもの発達において意味があることについて学んだことが興味深かった。
科目名	Education, Diversity And Equality	科目名	Play And Learning: Theory And Peactice
授業内容	イギリス社会における多様性をあらゆる側面から理解し、それぞれの社会的背景によって子どもたちの経験の深さや学習の到達度に差が現れている実態を分析する。そのうえで、学校や教員が一人一人の子どもたちのニーズに応えるためにはどうしていくべきかを考える。	授業内容	子どもの遊びが学びにどのような影響をもたらすのかを理解する。子どもたちがなぜ遊ぶのか、どのように遊ぶのかというところから、子どもの遊びにおける大人の役割まで、理論を通して探求する。
授業形式	Lecture and Seminar	授業形式	Lecture and Seminar
単位数	20	単位数	20
サイズ	1クラス20~30人	サイズ	1クラス40人程度
難易度 Course No.	CQFW Level 5	難易度 Course No.	CQFR Level 4
宿題の量	ふつう	宿題の量	ふつう
コメント	イギリスにおける民族の多様性が自分の想像を超えていて驚いた。Identityとは何か、Equalityとは何か、といった根本をまず問い、そのうえで子どもたち一人一人の尊厳を守り、その成長を促す教育を模索することは、日本の教育に対しても「個々の違いを認め合い、互いに尊重する」ことの大切さを考えさせられるものだった。	コメント	学習した理論を具体的な遊びに照らし合わせることで、遊びを通して子どもたちが学んでいることが実感としてわかった。子どもの権利条約に「遊ぶ権利」が保障されていることに感心した。新型コロナウイルスの影響で子どもたちの遊びが制限されるなかで、外遊びの重要性を改めて認識したことが意義深かったと感じている。

科目名	Making Sense Of The Curriculum	科目名	Children's Rights
授業内容	カリキュラム編成とその実践の基礎を学ぶ。また、それらがイングランド、ウェールズ、あるいはその他の国で、ナショナルカリキュラムの発展にどのように適用してきたかを理解する。	授業内容	子どもの権利が、社会的、政治的、歴史的にどのように解釈されてきたのかを知ると同時に、子どもの権利が着実に保障されるための実践的な手段を評価する。
授業形式	Lecture and Seminar	授業形式	Lecture and Seminar
単位数	20	単位数	20
サイズ	1クラス20人程度	サイズ	1クラス40人程度
難易度 Course No.	CQFR level 5	難易度 Course No.	CQFR Level 6
宿題の量	ふつつ	宿題の量	ふつつ
コメント	「カリキュラム」を、「もともと決まっているもの」、「従うべきもの」として見るのではなく、それがどのように決められ、どのような内容であるべきかを考える視点を根底に持って学んだ。そのことが、日本の学習指導要領についてもどう向き合うべきかを考えるよい機会となった。	コメント	「子どもの権利」が、「大人の権利」や「人権」と比べてどう解釈されるべきかをめぐって様々な議論が展開されていることを知り、そのことに特に関心をもった。あらゆる状況下の子どもたちが社会から置いていかれ、その権利を十分に享受することができていない現実を真剣に問い直す必要性を強く感じた。
科目名		科目名	
授業内容		授業内容	
授業形式		授業形式	
単位数		単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.		難易度 Course No.	
宿題の量		宿題の量	
コメント		コメント	
科目名		科目名	
授業内容		授業内容	
授業形式		授業形式	
単位数		単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.		難易度 Course No.	
宿題の量		宿題の量	
コメント		コメント	

2	<p>授業において困ったこと、その解決法について教えてください</p> <p>主に2年生の授業を履修したため、周りの生徒はすでに互いに顔見知りで、授業について気軽に聞ける友だちをつくるのが難しかった。しかし、話が聞き取りやすい子や、何かとフォローしてくれる子を次第に見つけられるようになり、授業のたびにそうした子の近くに座ることで何とか授業についていけるようになった。また、授業について不安なことやわからないことがあるときには、教授に相談し、解決した。教授は生徒の質問、相談を歓迎し、メールによる質問も、直接会っての相談もいつでも受けつけてくださったため、疑問点をうやむやにせず学習することができた。</p>
3	<p>授業以外の活動についてお書きください</p> <p>Language Exchange Platformというプログラムに参加した。このプログラムは、自分が学びたい言語を日常的に使い、かつ自分の使用言語を学びたい学生とペアまたはグループをつくり、互いの言語を教え合い学び合うものである。私は日本語と英語のグループに参加し、週1のペースでおこなった。言語を学習するなかで、今まで知らなかった相手の国の文化について色々聞いたことがよい経験だった。</p>
4	<p>寮(またはアパート、フラット)の生活について教えてください</p> <p>寮(またはアパート、フラット)名とその場所</p> <p>6週間のPre-sessional course期間中は、キャンパスの敷地内にあるCwrt Mawr。9月の授業開始以降は、キャンパスと道を挟んだ向かい側にあるPentre Jane Morgan (PJM)。</p> <p>設備についての簡単な説明</p> <p>Cwrt Mawrはアパートで、一人ずつ部屋が分かれているが、キッチン、シャワールーム、トイレは共用。PJMは、小さな家々(2階建て)が並んだ住宅街のようになっており、一つの家には6~7人が共同で住む。Cwrt Mawr同様、一人ずつ部屋が分かれているが、キッチン、シャワールーム、トイレは共用。ただし、洗面台が個人部屋についていないのが不便だった。どちらの寮も、それぞれのフラット/ハウスは、「男女混合」または「女性のみ」のどちらかを希望できる。</p> <p>部屋について</p> <p style="text-align: center;">_____ 1 人部屋 広さ _____ 8 畳くらい</p> <p>ルームメイトについて</p> <p>Cwrt Mawrのフラットメイトは、全員Pre-sessional courseで一緒に学んでいる人たち(ほとんどが中国人)だったため、仲良く過ごせた。しかし、PJMではハウスメイトが思ったよりもそれぞれ孤立していたため、全員で仲良くしようという雰囲気はなかった。それでも、家事の分担を決めたり、ハウスメイト全員のチャットグループをつくったりして、あまりうまくいったとは言えないが、みんなで共同生活をやりくりした。</p> <p>寝具や生活用品の入手方法</p> <p>寝具は、事前に寝具セット(シーツ、布団、枕)を申し込んでいたため、寮に到着したときに既に部屋に置いてあった。食器や調理器具は街にあるPoundland(日本でいう百均)や、9月のオリエンテーション期間中に大学で開かれるBig Sale(チャリティー)で揃え、安く済ませた。そのほか、食料や日用品は、街にあるTescoやLidlなどのスーパー(安い)か、大学のそばにあるCK(少し高い)で購入した。</p> <p>生活の感想</p> <p>PJMのハウスメイトは、全員が異なる国から来た学生(フランス、ラトビア、リトアニア、イングランド、アイルランド、日本)で、なかなか経験できない国際的な空間で暮らすことができた。フランス人の子が、自分で作ったケーキやお菓子をハウスメイトのためにキッチンに置いておいてくれることがよくあり、とてもうれしかったし、フランスの食文化(ガレット・デ・ロワ:1月6日の公現祭に食べる、クレープの日:2月2日、など)を知るきっかけにもなった。ただ、ハウスメイトによってはあまり共同スペースを清潔に使おうとせず、キッチンや洗面所が汚くなるが多かったため、対処に困った。</p>
5	<p>食事についてコメントを書いてください</p> <p>ほぼ自炊だった。当初はパンやパスタを主食にしていたが、続かなくなったため、途中からタイ米に切り替えた。値段は高いが、Tescoには日本食や日本の調味料がいくつか売られていたため、醤油は常備し、日本食に近いものを主に作って食べていた。キャンパス内にはTa Med Daという食堂があり、学生には少し高いが、おいしかった。街のレストランの食事も、どれもおいしかった。日本と比べて物価が安く、野菜などはもちろん、まだEU加盟国だったことからチーズなどの輸入品もとても安かった。</p>

6	医療保険についてお書きください
	渡航前に加入した保険
	TIP JAPAN—ジェイアイ傷害火災
	留学先大学にあった医療保険制度
	NHS (National Health Service)
	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)
	なし

7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)	
	(現地通貨)	
	渡航旅費	241,390 円
	帰国旅費	渡航旅費に含まれる 円
	引越し(往復で)	0 円
	保険	224,130 円
	語学研修費	£1,710 253,080 円
	留学先学費	£11,600 1,716,800 円
	本学学費	200,000 円
	教材費	0 円
	住居費	£3,336.04 493,734 円
	食費	£733.02 108,487 円
	その他(日用品、交通費、娯楽など)	£725.16 107,324 円
	()	円
	合計	3,344,945 円
	換算率 (£1 = 148 円)	

	受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください
	JASSO奨学金

8	留学前の準備について教えてください
	日本から持参すべきもの
	・マスク…医者に診てもらったことはなかったが、風邪をこじらせたとき、のどの保湿に役立った。大学のキャンパスや寮には基本的に加湿機が設置されていないため、特に冬場は乾燥対策が必要となる。・箸、菜箸…現地のお店では見かけなかったため、持っていくべき。・第二外国語の教科書など、英語以外の言語の教材…現地では、英語母語話者だけでなく、様々な言語を話す人々と出会う。その際に、英語以外の言語の知識があると、交流の幅が広がるだろう。
	留学前にしておけばよかったこと
	現地の気候を詳しく調べておけばよかった。アペリストウィスは想像以上に寒く、また、嵐が頻繁に起こることで有名な地域だと後から知った。雨が降ることが多いのはもちろん、風の強さがすさまじく、防寒、防水対策が事前にもっとできていればよかった。

9	<p>適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください</p> <p>学習面では、イギリスやヨーロッパの国々では常識として知られている事柄や文化に関する話が授業中に出てきたときに、それらを理解するまでに時間がかかった。特に、イギリスの学校の制度(小・中・高校にはそれぞれ何歳から何歳までの子どもが通うかなど)は日本と大きく異なり、それらを踏まえうえで授業を受ける必要があった。また、授業中のディスカッションでは、生徒によって英語のアクセントやスピードが様々であるため、慣れるのが難しかった。生活面では、日本食、特に日本のお米や味噌が手に入りやすかったため、他の食材で我慢しなけらなかつた。そのほか、スーパーのレジでは、商品の値段を読み取った後、日本のように店員さんが商品をかごに入れ直すということをしてくれず、買った商品を袋に詰めるための別のスペースも設けられていないため、自分でその場で袋に入れる必要があった。それゆえ、レジが混んでいるときは急いで商品を移動させるようにした。</p>
10	<p>留学の成果(学習面・精神面)を教えてください</p> <p>学習面では、主な評価対象が2500wordsのエッセイだったため、与えられた字数を書くことはもちろん、参考文献を批判的に読み、それを土台に論理を展開し、一貫した文章を書く力をつけた。教育学は、津田塾大学では教職課程のなかでしか学んでこなかったが、この留学では、子どもの成長とそれに見合った教育はどうあるべきかを様々な切り口から学び、教育に影響を与える社会そのものまでも広く捉えられれるようになった。精神面においては、自分の限界に挑み、常によりよいものを生み出そうという姿勢で課題に取り組むことができた。留学前に掲げた目標がなかなか達成できないと感じながらも、少しでも前進しようと思えることができた。わからないことがあったときは先生や友だちにすぐに聞き、うやむやにせずに向き合う習慣がついた。</p>
11	<p>今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください</p> <p>留学で学んだ教育の知識をさらに発展させるために、日頃から日本と世界の教育情勢を追い、広い視野を持って教職課程の授業に取り組みたい。また、外国語を学ぶことの意義、楽しさを、英語とウェールズ語が共に話されているアベリストウィスでの生活を通してより一層感じたため、3年ゼミ(英語学)での学習に励み、言語の奥深さを探りたい。進路については、今のところ中学校の英語教員を考えている。その過程で、教育(発達心理)や英語学の分野の知識を深めるために、大学院進学も視野に入れている。</p>
12	<p>留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします</p> <p>私は、留学前は期待よりも不安の方が大きく、本当にこの留学でやりたいと思ったことがやり切れるのかが気がかりでした。目標を達成できるかどうかは、自分がそれに向き合う姿勢やどれだけ学習を積んだかにかかっていると思うがゆえに、「今のやり方で本当に自分の力が伸びているのだろうか」と不安になったり、自分の実力を痛感して悲観したりといったことがたびたびありました。それでも、留学を終えて今感じるのは、「この留学を通して自分はこうなりたい」という留学前の決意に常に立ち返り、それに向かって自分にできる精一杯のことをやろうという思いで学び続けてきたことが、自分の成長につながったということです。留学は、学習面に限らず、人との交流を大きく広げてくれるものです。出会いを楽しみ、あらゆることに新鮮な気持ちで取り組むことによって、人間としての成長が得られることを実感しました。</p>
13	<p>その他、ご自由に意見を書き込んでください</p> <p>幸運にも、現地の方との交流を持つことができ、その出会いを通じて街の教会(すべてがウェールズ語でおこなわれる、ウェールズ語話者のための教会)にも通い、人とのつながりが大いに広がった。人々のやさしさに触れ、日々の忙しさの中で忘れかけていた「他人を思いやることの大切さ」を身に染みて感じた。</p>



クリスマスに知人の家で



寮(PJM)の裏に続く森を抜けた丘の上から見下ろす、アベリストウイスの街